

鶴見半島及び大島地域の野鳥

九州最東端^{つるみ ざき}鶴御崎のある鶴見半島及び大島地域は、渡り鳥のメインストリート豊後水道に面しており、春や秋には、九州と四国の間や豊後水道を南北に多くの鳥が移動します。この地域は渡りの途中でエネルギーを補給したり、休息、悪天候の時の避難場所など、これらの渡り鳥にとって重要な場所となっています。又、この地域全体に広がる照葉樹林はメジロやヒヨドリなどの留鳥類の良好な生息場所となっています。

海岸部で見られる鳥

海上では、ウミネコやカワウが魚を捕らえています。冬になると北の国からセグロカモメやオオセグロカモメ、ウミウなどが渡って来ます。

海岸の岩場などでは、コサギやアオサギ、イソシギ、イソヒヨドリなどが餌を探して歩き回っています。

上空では、タカの仲間のミサゴが飛びながら餌を探し、泳いでいる魚を見つけると水中にダイビングして捕らえます。ハヤブサはヒヨドリの群などを追いかけて、空中で捕らえます。



ウミネコ（留鳥）



ウミネコ（留鳥）



ミサゴ（留鳥）



ハヤブサ（留鳥）



イソヒヨドリ（留鳥）

森林部で見られる鳥

鶴見半島や大島に広がる照葉樹の林では、一年を通じてメジロやヒヨドリ、エナガ、ヤマガラなどが見られます。春から夏にかけて巣作りをしてヒナを育てま

す。林の中では昆虫や木の実などのエサを探して移動しています。冬になると、ジョウビタキやシロハラ、ミヤマホオジロなどが越冬のために渡ってきます。



エナガ
（留鳥）



ジョウビタキ
（冬鳥）

鳥の渡り

鶴見半島及び大島地域のある豊後水道は渡り鳥の移動コースにあたり、春や秋にはたくさんの鳥が渡ります。小鳥類は、タカなどの天敵を避けて夜間渡ったり、群を作って移動したりします。

夏鳥 繁殖のため、南の国から、春に日本に渡ってきます。子育てが終わると、秋から冬にかけて南の東南アジアなどに渡って行きます。キビタキ、サンショウクイ、サシバ、ハチクマ、ツバメなど

冬鳥 越冬するために、北の国から、秋に渡って来ます。春になると、ふたたび北の国に帰ります。ウミウ、オオセグロカモメ、ジョウビタキ、シロハラ、アオジなど

旅鳥 北の国で繁殖し、南の国で越冬するためにこの地域を通過する鳥です。エゾビタキ、ノビタキ、コムクドリなど

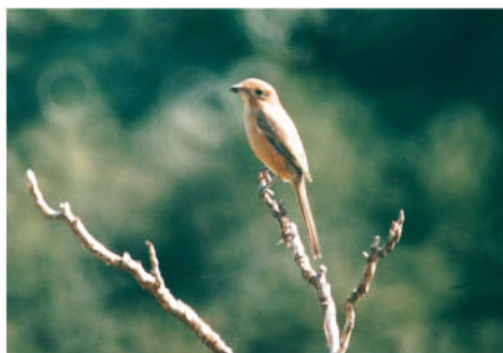
留鳥 この地域の林の中や草地、海岸などで、1年中生活している鳥です。メジロ、ヒヨドリ、ホオジロ、モズ、イソヒヨドリ、クロサギなど



ウミウ（冬鳥）



オオセグロカモメ（冬鳥）



モズ
（留鳥）



クロサギ
（留鳥）

渡りをするタカ

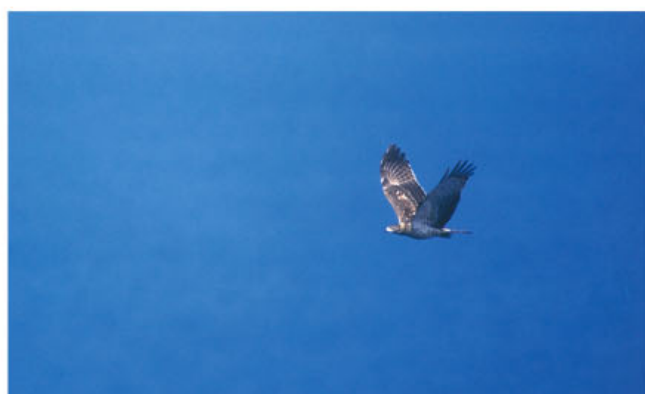
秋、タカの仲間のサシバやハチクマは群をなして南の国に渡って行きます。四国の西海岸高茂岬などを飛立ったサシバやハチクマは豊後水道を越え、鶴見半島沿いに九州に入ります。さらに九州を南下して、鹿児島県の佐多岬から南西諸島に沿って東南アジアなどに

渡ります。

10月には、四国から渡って来たサシバやハチクマが、鶴御崎灯台や大島上空で上昇気流をとらえて高度を上げ、南西方向に移動して行くのがよく見られます。



サシバ（夏鳥）



ハチクマ（夏鳥）